

島嶼学概論レポート

鹿児島大学大学院 水産学研究科 水産学専攻

修士課程 1 年 3812800229 三宅紗知

① 硫黄島の概要

竹島、硫黄島、黒島三つの島からなり、南にトカラ列島、西に草垣群島を望む位置にある。人口の推移は、昭和 35 年に 604 名であったのが、平成 7 年に 112 名、現在平成 24 年では、110 名と減少傾向を示している。収入源は畜産(3%)と漁業 (8%)、第二次産業 (30%)、第三次産業 (59%) である。温泉や名所旧跡 (安徳天皇・僧俊寛) 等の豊富な資源を持つ。日本名湯百選に選ばれる名湯も持つ。

② 重要性

領土、領海の保全として硫黄島は重要な役割をになっている。また、世界にも類をみない、流れ出した温泉と硫黄が黄緑色や赤色に海の色を染め、神秘的な雰囲気を醸し出している自然環境は保全すべき日本の大切な資源である。

硫黄島周辺の動物プランクトン群集

メソプランクトン組成では、特徴的な硫黄の含有量が多い入江内、外洋域と比較するとかなり異なる生物相が観察された。プランクトンの種類では亜熱帯性の種が観察された。またバイオマス量は多く、エビ、カニ類の幼生が多数見られたことから水産資源に大変恵まれた環境であるといえる。

硫黄島湾内から、硫黄を捕食する細菌が見つかっていることからも硫黄島を取り巻く海洋環境は大変珍しく、ほかにはない環境であると考えられる。(まだ、サンプル分析取り組み中です)

③ 特色ある活動

しおかぜ留学生制度 年々減少する児童生徒の減少対策として、平成 9 年 10 月から始めたこの制度は平成 23 年度まで述べ 262 名となっている。暖かい住民の心と大自然に囲まれ、のびのびと学べる環境が留学の人気要因となっており、リピーターも多い。

鹿児島市冒険ランドいとうじま 硫黄島での自然観察や海遊び、遠足などといった様々な体験活動の拠点となっており、夏季には、鹿児島市内の多くの小学生が訪れ、自然について学んでいる。

みしまジャンベスクール 平成 6 年から交流を続けている西アフリカの世界的なジャンベ奏者ママディ・ケイタ氏との出会いにより彼から伝授されたジャンベは三島村を代表する音楽と楽器となっており、毎年約 40 名の生徒がジャンベを習っている。

④ 硫黄島のかかえる問題点

人口の減少 村内には高等学校がないために、中学卒業と同時に毎年 10 人前後の子供

たちが高等学校進学のために出でていくが、就職口が無いために卒業後に帰村するものではなく、少子高齢化、そして人口の減少が続いている。小学校に通う生徒の内訳（平成24年）をみると、島内住民の子供4名、教師の子供5名、公務員の子供7人、留学生2名の合計18名であることからも強い少子高齢化の影響が見られる。

フェリーの運航 1航海につき、約110万円（うち燃油代80万円）かかるが、採算の取れない赤字航路であるために、民間による経営がなされず、村営による船舶交通事業を行っている。フェリーには、冷凍・冷蔵出来るコンテナ一台、魚介類を生きたまま運ぶことのできる活魚槽を持っている。硫黄島の食糧はほとんど輸送物資に頼っている状況であるために、運搬機能として大変重要な役割を担っている。

⑤ 問題点をうけて

人口の減少 硫黄島での主な人口の減少の原因として、雇用がないことが挙げられる。そのために、高校進学のために島外に出たまま戻ることのできない人も多くいる。島内の産業として畜産(3%)は売上額についてはほぼ横ばい傾向であるが若手農家や新規就農者も見られる。漁業(8%)に関しては新規参入者もあまり見られない状態である。硫黄島で最も水揚げ量の多い漁業はイセエビ漁であるが、そのほか回遊する1級魚を安定的に供給するため、定置網の導入や魚礁設置による漁場の整備、また漁法の改良や漁港の整備により水産業の基盤が整いつつあり、近年フェリーに、冷凍、冷蔵庫や活魚槽なども設置され、季節や気候によって左右されることのない安定した漁業を目指し整備に取り組んでいる。このため、活魚、活〆形態での出荷を行い鮮度を維持しつつ出荷することで更に大きな利益を上げることができるのではないかと考えられる。また、冷凍をして出荷、島内で加工をし付加価値を付け出荷する、流通としては、ウェブサイトを通した販売等が考えられる。これら新たな水産業を中心とした事業により新たな雇用を創出することのできる可能性がある。

⑥ 感想

短い間でしたが、硫黄島に実際に訪れて、硫黄島の素晴らしい自然環境、そして、暖かい硫黄島に住んでいる皆様、のびのびと学んでいる小学生の姿は大変魅力的に移りました。類をみない自然環境、領土領海のためにも、硫黄島の健全な経営は重要ではありますが、もっとほかに、島民の方々の暖かい人柄や、硫黄島を思い出してもらうためにとジャンベを大切にされ、伝承されている心は、本当に今後もそのままに残していきたい鹿児島の大切な財産であると感じました。短い間でしたが、研修に掛かりお世話になりました、野田伸一教授長嶋 俊介教授、河合 溪教授、そして島民の皆様、特に2日間詳細に案内してくださりました三島村役場の総務課の大山様、サンプル採取のために船を出していただきました大山辰夫様に深く御礼申し上げます。